

連珠っておもしろい

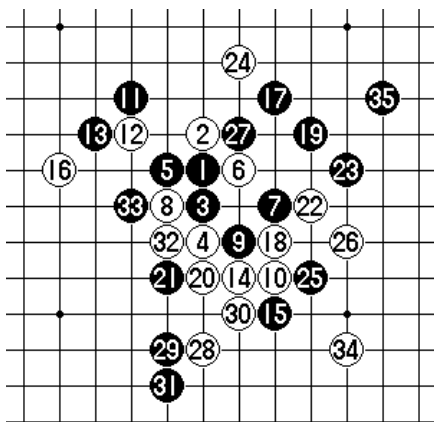
九段 河村典彦

● 第120回 ●
タイムラ追悼

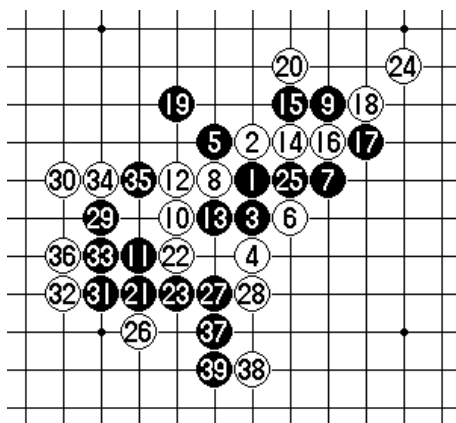


世界に衝撃が走った。元世界チャンピオンである、エストニアのタイムラ氏が2月に亡くなったというニュースが駆け巡ったのだ。まずは、簡単に彼のご紹介しておこう。1988年6月21日生まれ、満年齢で言うと34歳になる。2003年に行われた第8回世界戦で、初出場でありながら、弱冠15歳で優勝してしま

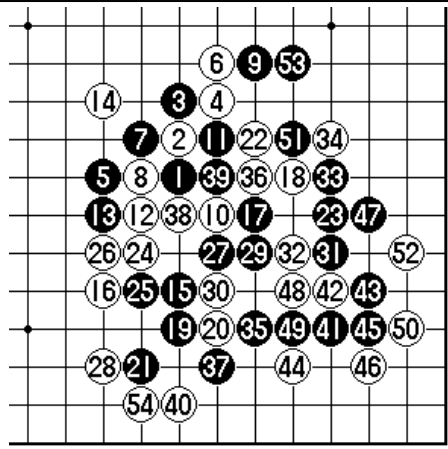
った。10年後の2013年の第13回世界戦でも二度目の優勝を遂げている。R10の記録で見ると、最初の実戦が98年だったように、10歳から始めて5年で世界一になったということになる。おそらくアンツの指導が良かったのだろう。また、エストニアにはメリテーという絶対的エースがいたので、上達する方法には事欠かなかったであろう。最近の実戦からは遠ざかっていったようだが、R10の普及を担当するメンバーとして、まさに亡くなる直前でもEWC会議に参加していた。直接会話していただけない、私としても、え！そんな、という思いだった。当然のことながら非常に強いのだが、どんな棋譜を残したのか実際に見てみよう。まずは初優勝した第8回世界戦のATから。日本人選手との一戦を何局かご紹介しよう。



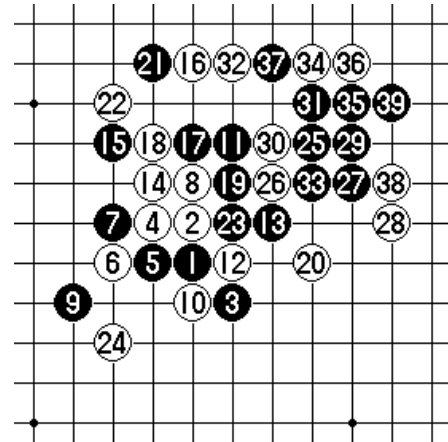
黒 タイムラ 白 飯尾
白は当時海外遠征に燃えていた飯尾さん。両者ともこの世にいないというのは非常に残念だ。白18までは過去の挑戦手合いで打たれた手順。おそらくタイムラの知識不足を狙ったのだろう。白途中までは何とか防いでいたが、白24が大失着で白投了となった。黒35



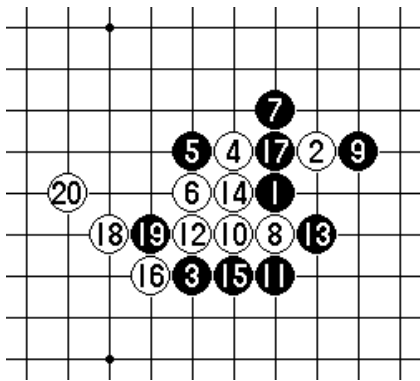
同じく松月スタートとなったが、黒5で変わった。黒9に対し最強防で進んだが、白14の中止めが趣向。この手も十分考えられるが、黒19の突き出しが絶好点だ。続いて黒21の組み立てがうまい。白24は26との組み合わせで防いでやる、という手であったが、黒27から引き出して以下完勝となった。タイムラは黒番の切れも鋭かったが、むしろ白番の方が得意だった感じがする。白番の棋譜も見てみよう。



黒 大角 白 タイムラ
この一局は10年後の第13回世界戦ATでの第一局である。黒は当時日本期待の星であった大角君である。寒星から進んだこの局は、黒の攻めが成功するかどうか焦点となった。実は本局は黒41を打ち替えて勝ちがあった。黒41で31の一路右に含み手を打てば黒勝ちだった。ただ、相手に勝つ手を発見させないのも技術のうちだ。最初の局を拾ったタイムラはそのまま優勝を遂げた。



黒 タイムラ 白 岡部
同じく第13回世界戦ATから、岡部君との一局を見てみよう。斜月丘月共通の黒5は昔も今も難解だ。この頃は打ち方が確立されていたはずだが、白24の緩着を捕らえた黒が右辺で速攻を加えてしつかり勝ち切った。黒31が勝着となった。最後に私との一局を紹介しよう。実は彼とは一局打っている。しかもそれは、私がドイツに住んでいた時にロシアで開催された欧州選手権であった。2012年の8



月のことである。

黒 河村 白 タイムラ
当時流行りかけていた流星白8に対峙したのだが、思わず手拍子で黒9と打ってしまった。打った瞬間にあ！となったのだが、ここで時間を使って勝ちを讀み切られた。白10と打たれては止まるはずもない。ちよつと情けない棋譜を残してしまった。
タイムラはプロのポーカープレイヤーとしても有名な才能を持つ天才が最後にまた連珠に戻ってきてく

れたのに、残念でならない。

とここで、このコラムも実は今回で120回、つまり20年!!に達した。東京転勤で京都から離れたので何か恩返しに、と始めたのだが、2か月に1回というのがちょうど良い間隔で、何とかこれまで続けてこられた。ドイツに行った際には向この生活についても書いたし、亡くなられた方への追悼文も多かったと思っっている。全文章をPDF化してホームページに掲載しているので、ぜひ過去の文章も読んでもらいたい。作戦的にもここから拾ったら結構使えるものが多いと思うので、積極的に利用してほしい。その時々思ったことを記録として残すのは、後にごく助かることもある。皆様にはぜひ文章として残すことをお勧めする。次号からは、30年に向かって書くことになるだろう。